

句 評

北川 拓治

「川柳たましま社」代表

三月の半ば、題は何がいいかと相談があった中、若者らしい夢や希望の持てる、相応しい題を探したが、結局は「恋」と「オアシス」に落ち着いた。この企画も三年目、句も上達しているし、句作りに無駄がなくなっていると素直に感じる事が出来た事はうれしい限りである。いい作品をいっぱいありがとう。

「 恋 」

第一席 恋なのに財布の中を見てしまう

若き頃の自分を投影しているようで、思わず頷いてしまった。

恋なのに財布を覗く男の気持ちが痛いほど分かる。何故と尋ねられても正確には答えられないが、男の本能と答えよう。

第二席 好きと言うそれだけでいい夏の恋

若者のストレートな気持ちが簡潔に表現されていて、思わず応援したくなるし、背中を押してやりたい気持ちになります。

第三席 春の旅君の隣で恋を知る

春の旅がいい。二人で初めての旅か、仲間も一緒かと野暮な詮索はしないで、句の通りだんだん恋に墜ちる様子が若者らしくていい。

「オアシス」

第一席 オアシスの理想型とはひとり飯

オアシスの理想型はひとり飯と誰もが思いながら、活字に出来ない葛藤がある。負け惜しみではなく複雑な人間関係に疲れた男のオアシスが、そこに存在する。

第二席 寝顔こそ僕のオアシス起こせない

子どもの寝顔も恋人の寝顔も一緒なのです。何の邪心もない、夢みるような恋人を起こすことはしないで、ただ黙ってじっと見ただけで幸せです。

第三席 退院のオアシス彼のつなぐ手が

退院という目出度く嬉しい日に、愛する彼とまた元気に生還できた喜びと、握られた手の温もりは決して忘れることはないだろうと確信する。

軸 吟

「恋」 恋人の足から水虫がうつる 拓治

「オアシス」 オアシスは東京砂漠にありますか 拓治